

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	北海道教育委員会										
研究課題	○ 学校改革に結び付く学校評価システム構築事業										
研究のねらい	○ 学校評価の改善充実に組織的に取り組む教職員を育成するための研修体制の構築 ○ 学校・家庭・地域と連携した取組による学校運営の改善										
研究の概要	○ 学校評価の改善充実に組織的に取り組む教職員を育成するための研修体制の構築 1 スクールリーダーを対象とした合同研修会の実施 ・ 指定地域の教育委員会が、学校評価の先導的な役割を果たす「実践指定校」と、その近隣で実践指定校の取組を積極的に学ぶ「近隣実践校」を指定し、指定校の管理職等を対象に、講師を招き、学校評価にかかわる講義及び演習を行った。  【合同研修会の様子】 2 若手教員等を対象とした校内研修の実施 ・ 実践指定校及び近隣実践校の職員を対象に、組織的に学校運営等の改善を図り、学校評価の充実と教育課程及び指導方法の改善に資するため、学校評価にかかわる講義及び協議・演習を行った。  【若手教員等を対象とした校内研修の様子】 ○ 学校・家庭・地域と連携した取組による学校運営の改善 1 学校改善サイクルの実質化・迅速化を図るためのシステムの構築 ・ SMARTの考え方に基づく目標設定を行い、可視化を図ることで職員が分かりやすいものとした。 〈SMARTの考え方〉 <table> <tr> <td>S ・ ・ Specific</td><td>具体的な目標</td></tr> <tr> <td>M ・ ・ Measurable</td><td>測定可能で誰にでも分かりやすい目標</td></tr> <tr> <td>A ・ ・ Achievable</td><td>頑張れば達成が可能な目標</td></tr> <tr> <td>R ・ ・ Reasonable</td><td>関係者が納得のいく目標</td></tr> <tr> <td>T ・ ・ Time-bound</td><td>目標実現までの期限の明確化</td></tr> </table>	S ・ ・ Specific	具体的な目標	M ・ ・ Measurable	測定可能で誰にでも分かりやすい目標	A ・ ・ Achievable	頑張れば達成が可能な目標	R ・ ・ Reasonable	関係者が納得のいく目標	T ・ ・ Time-bound	目標実現までの期限の明確化
S ・ ・ Specific	具体的な目標										
M ・ ・ Measurable	測定可能で誰にでも分かりやすい目標										
A ・ ・ Achievable	頑張れば達成が可能な目標										
R ・ ・ Reasonable	関係者が納得のいく目標										
T ・ ・ Time-bound	目標実現までの期限の明確化										

	・ G P A C改善サイクルの考え方にに基づき、適切な学校運営を目指した取組を行った。 〈 G P A Cの考え方〉 <table> <tr> <td>G ・ ・ G O A L Setting</td><td>目標設定</td></tr> <tr> <td>P ・ ・ P L A N</td><td>計画策定</td></tr> <tr> <td>A ・ ・ A C T I O N</td><td>計画の着実な実施</td></tr> <tr> <td>C ・ ・ C H E C K</td><td>点検・評価</td></tr> </table> ・ 学校運営協議会を適宜開催し、学校運営に対する協力を家庭及び地域に依頼するとともに、学校・家庭・地域が共同で指導の在り方について協議した。 ・ 実践指定校及び近隣実践校において、学校評価の共通項目を設定し、地域全体で組織的に学校評価に取り組んだ。 〈学校評価の共通項目〉 <table> <tr> <td>○ 学校生活の充実</td><td>○ 体力向上</td></tr> <tr> <td>○ 地域との連携</td><td>○ 基本的な生活習慣</td></tr> <tr> <td>○ 家庭学習の状況</td><td>○ 校内研修</td></tr> <tr> <td>○ 読書の状況</td><td></td></tr> </table> 2 実践指定校等での取組 ・ マネジメントサイクルを生かして学校改善を図っている事例を調査、検証し、学校運営に還元した。 ・ 近隣実践校と交流を行い、実践指定校の取組等を生かして活用を図っている。 3 北海道教育委員会による指定地域市町村教育委員会や実践指定校等への指導助言 ・ 北海道教育委員会の指導主事が、指定地域の教育委員会及び実践指定校を訪問するなどして、学校評価の充実に資する指導助言を行った。	G ・ ・ G O A L Setting	目標設定	P ・ ・ P L A N	計画策定	A ・ ・ A C T I O N	計画の着実な実施	C ・ ・ C H E C K	点検・評価	○ 学校生活の充実	○ 体力向上	○ 地域との連携	○ 基本的な生活習慣	○ 家庭学習の状況	○ 校内研修	○ 読書の状況	
G ・ ・ G O A L Setting	目標設定																
P ・ ・ P L A N	計画策定																
A ・ ・ A C T I O N	計画の着実な実施																
C ・ ・ C H E C K	点検・評価																
○ 学校生活の充実	○ 体力向上																
○ 地域との連携	○ 基本的な生活習慣																
○ 家庭学習の状況	○ 校内研修																
○ 読書の状況																	
研究の成果	○ 実践指定校における学校評価では、教職員の学校経営に対する参画意識をもつことについて肯定的な回答をした教職員の割合が90%以上となった。 ○ 学校評価に関わる各種研修を通して、ミドルリーダーが学校改善サイクルに基づいた学校運営の視点をもつことができた。 ○ 学校改善サイクルに学校評価の結果が積極的に活用されるようになり、学校課題の解決に直結する計画の立案がされるようになった。 ○ 域内の学校における学校評価の共通項目の設定や報告書の様式の統一等を行ったことにより、地域全体での学校評価の取組を推進することができた。 ○ 保護者や地域住民に学校評価の結果を説明したことにより、保護者や地域住民の学校の取組についての理解が深まった。 ○ 学校関係者評価会議に数値目標や評価項目を示したことにより、地域住民の学校運営への参画意識が高まった。																
本件 問い合わせ先	北海道教育庁学校教育局義務教育課義務教育グループ TEL:011-204-5963 FAX:011-232-1072 E-mail:kyoiku.shochu1@pref.hokkaido.lg.jp																

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	世田谷区教育委員会
研究課題	学校評価の効率的実施と実効性の向上に向けた『学校評価システム』マネジメントスタンダード」の検討・試行・策定
研究のねらい	世田谷区では、区立小中学校における質の高い学校教育を推進するために、学校経営等のモデルとなる「世田谷マネジメントスタンダード」の策定に向けて、教育委員会事務局の管理職及び小・中学校の校長の代表等で構成される世田谷マネジメントスタンダード検討委員（以下「委員会」という。）会及び「学校評価システム」マネジメントスタンダード作業部会（以下「作業部会」という。）を設置し、検討に取り組み、平成 26 年度末に「世田谷マネジメントスタンダード(たたき台)」(※)を作成した。 これまでの検討結果を踏まえ、作業部会において、学校評価のプロセスの効率化や、学校関係者アンケートや区独自の学力調査の結果等の評価素材のより効果的な分析のあり方について検討を進め、「世田谷マネジメントスタンダード」の一環として、『学校評価システム』マネジメントスタンダード」の策定に取り組み、学校評価を学校の組織的、継続的かつ自律的な改善のために、より実効性のあるものとする。 ※『学校評価システム』マネジメントスタンダード(たたき台)」を含む
研究の概要	① 区立小・中学校各校において、委員会及び作業部会での検討を踏まえながら学校関係者評価委員会を開催し、関係者等アンケートの各学校独自項目等の検討、アンケートの集計結果の分析や学校の自己評価報告書の評価等を踏まえ、総合的な学校関係者評価に取り組んだ学校評価に取り組んだ。 その中で、スクールアナリスト（国際大学豊福晋平准教授）は、学校関係者評価委員として学校関係者評価委員会に参加し、各種評価素材の分析、評価及び改善策の検討に携わった。また、作業部会委員として、学校関係者評価委員会での取組を踏まえ、『学校評価システム』マネジメントスタンダード」の策定に向けた検討に参加した。 ② 「『学校評価システム』マネジメントスタンダード（たたき台）」やスクールアナリストの意見等を踏まえ、作業部会において検討を進め、『学校評価システム』マネジメントスタンダード」を策定し、当該内容を含む「世田谷マネジメントスタンダード」の冊子として区立小・中学校各校へ配付した。 また、区における学校評価の取組の概要を示した学校評価システムリーフレットを印刷し、区立小・中学校各校に配付した。

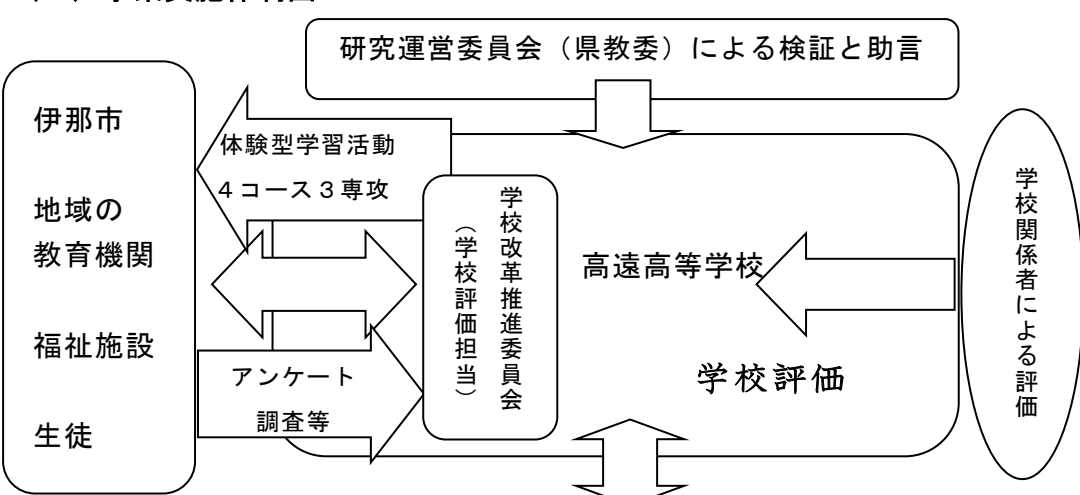
研究の成果	冊子「世田谷マネジメントスタンダード」の一部を構成する「『学校評価システム』マネジメントスタンダード」において、当該マネジメントスタンダード自体について、以下のように記述している。 「『学校評価システム』マネジメントスタンダードでは、学校評価のねらいを明らかにした上で、１年間の学校評価システムの主な流れや評価項目と評価項目と評価関連資料の関係一覧、学校における学校改善のためのＰＤＣＡサイクルモデル（例）などの資料を示し、学校評価システムの効果的な運用のための基本的な考え方を示している。さらに、評価計画・評価活動、考察検討など、年間を通した評価計画のフローなど、具体的な学校評価の進め方のモデル事例を掲載した。」 「『学校評価システム』マネジメントスタンダード」を含む「世田谷マネジメントスタンダード」は、他区から転入した学校管理職などが、世田谷区の学校教育を理解し、一定の水準を保ちつつ円滑な学校経営を行い、やがてより質の高い学校経営に到達するための実践ガイドとして活用されることが期待される。 【「学校評価システム」マネジメントスタンダードの主な項目】 ○学校評価システムの課題 ・学校評価システムの年間スケジュールの確認 ・日常的な教育活動における評価活動（ＰＤＣＡサイクルについて） ・評価項目について ・評価の進め方の基本的考え方について ・評価計画や評価活動の実際について ○マネジメントスタンダードの方向性 ・学校評価のねらいの明確化 ・学校評価のねらい達成のための効果的な年間スケジュール ・評価の進め方や基本的考え方について ○各学校が実施すること ・学校評価システムの主な流れ（スケジュール） ・学校評価の評価項目と評価関連資料（例） ・学校関係者評価委員会の活動内容 ・学校関係者評価委員会報告書について ○各学校で工夫すること ・学校における学校改善のためのＰＤＣＡサイクルモデル 等 ○学校評価システム実践の手引き
本件 問い合わせ先	※教育委員会名、担当部署 TEL: FAX: E-mail: 世田谷区教育委員会事務教育政策部教育指導課 TEL : 03-5432-2724 FAX : 03-5432-3041 E-mail : sea02251@mb.city.setagaya.tokyo.jp

※MS ゴシック、11P で作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HP に掲載する予定です。

A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	長野県教育委員会
研究課題	A. 教育改革に結びつく学校評価システム構築事業 ～地域体験型学習活動を学校評価へ～
研究のねらい	体験型学習活動の教育効果を検証し、学校運営・教育活動の改善を図るとともに、学校評価システムを検証する (1) 4コース・3専攻別の多岐にわたる体験型学習活動を地域と連携して実施している。その活動における連携機関や交流施設による評価と生徒の自己評価により、それぞれの体験型学習活動の有効性を評価する。 (2) それぞれの体験型学習活動を学校の重点目標の観点から評価し、その評価を学校評価に組み入れる学校評価システムを構築する。 (3) 学校目標の観点、プロセスの設計と組織のチーム力の検証を有識者、連携機関・交流施設職員、近隣の中学生・その保護者と本校保護者、職員により検証する。
研究の概要	(A) 事業実施体制図  実践研究委員会（有識者による助言・成果検証）: 伊那市高遠町総合支所長、伊那市長谷総合支所長、信州大学教授 長野大学教授、日本福祉大学準教授、国立信州高遠青少年主任企画指導専 (B) 学校評価システム体制の構築と検証 (1) 学校重点目標設定（学校評価の対象） (2) 評価の観点の設定（①コミュニケーション力 ②自主性・主体性（重点目標達成へ） ③人権意識（郷土愛）④自己肯定感 ⑤規範意識） (3) 地域体験型学習活動（4コース3専攻による） ア 文理進学コース ・南アルプスジオパーク現地調査 ・南アルプスジオパーク中学生へのガイドなど ・活動発表 イ 福祉コース ・福祉施設介護実習 ・保育園実習 ・長野大学社会福祉学部交流 ・地域公民館ボランティア活動など ウ 芸術コース ○音楽専攻・近隣小学校での合唱披露、・近隣中学校での合唱披露、 ・高遠高校芸術フェスティバル ・伊澤修二記念音楽祭に向け東京藝大との交流など ○美術専攻・中学生に絵画指導補助 ・上伊那高等学校美術展出品

	・地域の火災予防看板の制作 ・信州高遠の四季展審査会運営補助 ・東京藝大院生との高遠町ワークショップ ・高遠高校芸術フェスティバルなど ○書道専攻・小学生に書道指導補助 ・中学生に書道指導補助 ・高遠高校芸術フェスティバルなど エ 情報ビジネスコース ・バラ祭に合わせた高遠町紹介 ・高大連携城址公園もみじまつり観光客調査 (4) 体験学習活動評価 ((2) の観点で評価) ①学校関係者評価 (体験活動施設・機関職員 によるアンケート評価) + ②生徒自己評価 (生徒アンケート評価) ↓ (5) 学校評価 (実践研究委員会：外部有識者) ①それぞれの体験型学習活動の有効性評価 ②今年度重点目標の観点評価 ↓ (6) 次年度重点目標設定(学校改革推進委員会：学校評価担当) ①それぞれの改善された体験学習活動 ②次年度に向け学校運営・教育活動 ↓ (7) 学校評価システムの検証(実践研究委員会：外部有識者) ①目標の共有の検証(近隣中学3年生、その保護者) ②プロセスの設計(有識者、体験施設・機関による職員の分析) ③組織のチーム力検証(有識者・本校職員による分析)
研究の成果	○本校の体験型学習活動は近隣の中学3年生やその保護者が期待する体験学習活動とほぼ合致していることが検証できた。「地域の歴史や文化」についての体験型学習活動への期待もあるが、今年度実施しておらず、相応しい体験型学習活動を企画すべきであるとわかった。 ○本校の保護者がそれぞれの地域体験型学習活動を通して生徒が力をつけていることを実感しており、その力が中学3年生やその保護者が身に付けたいと期待している力と合致していることが検証できた。 ○体験型学習活動について学校関係者評価と生徒自己評価を組み合わせることで、それぞれの活動について改善すべき点が明らかになるとともに、客観的な評価が得られた。 ○体験型学習活動を体験施設の職員に評価をいただくため、その活動を実施するに当たってより綿密な計画をたてることとなり、努力目標が明確になった。 ○学校評価がより明確な根拠に基づいたものとなるよう、今年度の重点目標から観点を設定し、その観点別に評価する仕組みが構築できた。 ○体験型学習活動を通して、生徒の変容について意識的に観察し、生徒理解に繋がった。
本件 問い合わせ先	長野県教育委員会 教学指導課 TEL:026-235-7435 FAX:026-235-7495 E-mail: kyogaku@pref.nagano.lg.jp

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	福津市教育委員会
研究課題	A. 教育改革に結びつく学校評価システム構築事業
研究のねらい	1. 学校・家庭・地域の結びつきを強める学校評価の充実を図り、学校運営の改善へ導くための学校評価システムの構築に向けた取組 2. 実効性のある学校評価となるために必要な調査等のデータ分析や方法について専門的な助言や支援を行う学校評価アドバイザーの活用による取組 3. 業務改善を図る学校評価支援システムの導入
研究の概要	1. 学校・家庭・地域の結びつきを強める学校評価の充実 (1) 学校の取組 ○中学校ブロック学校評価委員会において9年間のめざす子ども像や身につけさせたい力をまとめた「共通評価項目」による評価・分析による改善 ○教職員の意識改善を図る学校評価計画の策定 ○学校関係者評価委員が円滑に評価するための自己評価シート・学校関係者評価シートの開発 ○学校評価を位置付けた中学校ブロック合同学校運営協議会の開催 (2) 教育委員会の取組 ○福津市学校評価共通項目を位置付けた福津市学校評価方針の策定 ○学校運営協議会を評価機関として位置付けた福津市学校評価計画の策定 ○福津市中学校ブロック小中連携推進委員会の設置（中学校ブロックにおける共通評価項目の設定） ○福津市コミュニティ・スクール研究発表会の開催（中学校ブロック共通評価項目における取組と達成状況等の説明・報告） ○中学校ブロック学校関係者評価を位置付けた福津市コミュニティ・スクール報告会の開催 ○自律的・組織的な学校運営体制の構築を目指した学校評価システムの充実を図る「学校評価の手引き」の作成（本調査研究の成果物） ○コミュニティ・スクール、学校評価に関する研究大会における研修（学校評価フォーラム、地域とともにある学校づくり推進フォーラム、全国コミュニティ・スクール研究大会）

【福津市学校評価計画の一部】

	PDC A サイ	評価活動等の内容	学校関係者評価委員会 (学校運営協議会)	学校評価委員会	小中推進委員会
4月	P	○学校教育目標・重点の設定 ○学校評価計画の作成	第1回学校運営協議会 ○校長による学校運営方針の確認 ○学校いじめ基本方針の説明 ○学校関係者評価の評価項目の協議・確認	○学校評価計画(評価内容・方法・評価基準等の検討) ○中学校ブロック共通評価項目の確認	○中学校ブロック共通評価項目の確認
5月		○評価計画にもとづく教育活動の実施			
6月	D				
7月	C	○データ収集 ・教職員アンケート ・保護者アンケート ・児童・生徒アンケート	○学校の教育活動の観察・参加(モニター) ・授業参観 ・学校の日訪問 ・学校行事への参加 ・登下校の様子観察 ・給食の時間、掃除の時間の観察 等	○学校評価中間報告について ・アンケートデータ分析・考察 ・学校自己評価の担当者会議 ・学校自校評価の報告書作成	
8月	A	○アンケートデータ分析・考察 ○学校自己評価書の作成	※例①中学校ブロック合同学校運営協議会		○中学校ブロック共通評価項目分析・協議

	2. 学校評価アドバイザーによる中学校ブロック及び教育委員会への支援 (1) 中学校ブロックへの支援 ○中学校ブロックで育てる総合学力の分析への指導・助言 ○中学校ブロック教頭会における実効性のある学校評価の指導・助言 (2) 教育委員会への支援 ○本市の学力向上を図るデータ分析による教育施策への指導・助言 ○学校評価計画策定に向けた教育委員会への指導・助言 ○課題に気づくためのデータ分析への指導・助言 3. 業務改善を図る学校評価支援システムの導入 (1) 学校評価集計業務の効率化を図る学校評価支援ソフト（慶應義塾大学SFC研究所の開発による「SMP 学校評価支援システム」）の導入支援 (2) 学校評価集計業務の実践のまとめの作成
研究の成果	■学校における研究成果 ○教職員の意識改善を図る自己評価シートの開発によって教職員が主体的に関わり、学校評価活動の推進を図ることができた。 ○中学校ブロック学校運営協議会において共通評価項目について評価結果を基に熟議を通して改善策を見出し、学校・家庭・地域の役割を自覚し、結びつきを強めることができた。 ○共通評価項目表もとに学校・家庭・地域が共通理解のもと、連携・共働して進めていく方向を揃えた取組について考えることができた。 ○学校評価アドバイザーの指導助言から中学校ブロックの総合学力レーダーチャートについて中長期で見届けるためにデータの有意性についてデータの絞り込みを行うことができた。 ○学校評価支援システムの導入・支援によって、学校評価アンケート集計作業の業務改善が図られ、学校評価分析がスムーズに行えるようになった。 ○本研究を通して保護者にとって学校評価の理解とともに学校への安心感と信頼感が深まった。 ■教育委員会における研究成果 ○学校評価アドバイザーの指導・助言によって本市学校評価計画が整備され、コミュニティ・スクールの機能を生かした実効性のある学校評価システムの構築を行うことができた。 ○本市の学力向上に結びつく教育施策の策定や学校支援を行うためのデータ分析・方法等について学校評価アドバイザーに指導助言をいただき、本市の学力向上に向けた効果的なデータの活用についての研修内容を改善することができた。 ○本調査研究の成果物の「学校評価の手引き」によって、本市の学校評価システムの理解と周知を図るために学校評価活動をまとめることができた。 ○学校評価アドバイザー、指導主事と調査研究協力校の教頭会が連携を図り、各学校が自律的・組織的な学校運営のサイクルを円滑に進められるように学校評価の流れや中学校ブロックで進める学校評価の取組等について協議や指導助言を通して効果的な学校評価を実施することができた。
本件 問い合わせ先	福津市教育委員会 教育総務課 TEL 0940-52-4914 FAX 0940-52-0314 E-mail: kyoiku@city.fukutsu.lg.jp